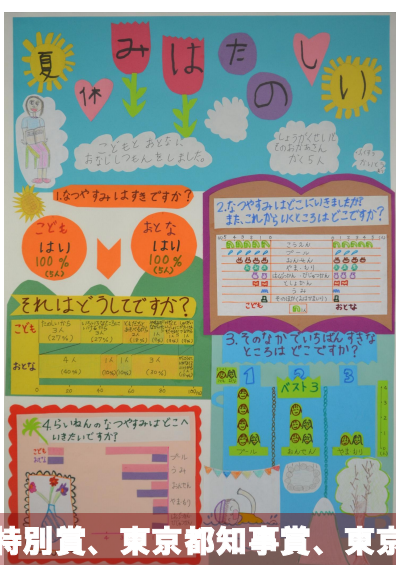
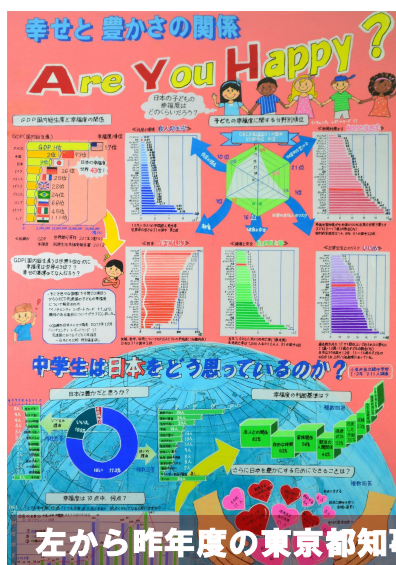


東京都総務局統計部が主催、東京都庁45階展望室で… “第62回東京都統計グラフコンクール”作品展 ～昨年度の東京都統計グラフコンクールの入賞作品等を展示～ 2015年7月23日（木）～28日（火）の6日間



初日午後、開場直後のためか人影はまばらですが先生方が熱心に見学中でした



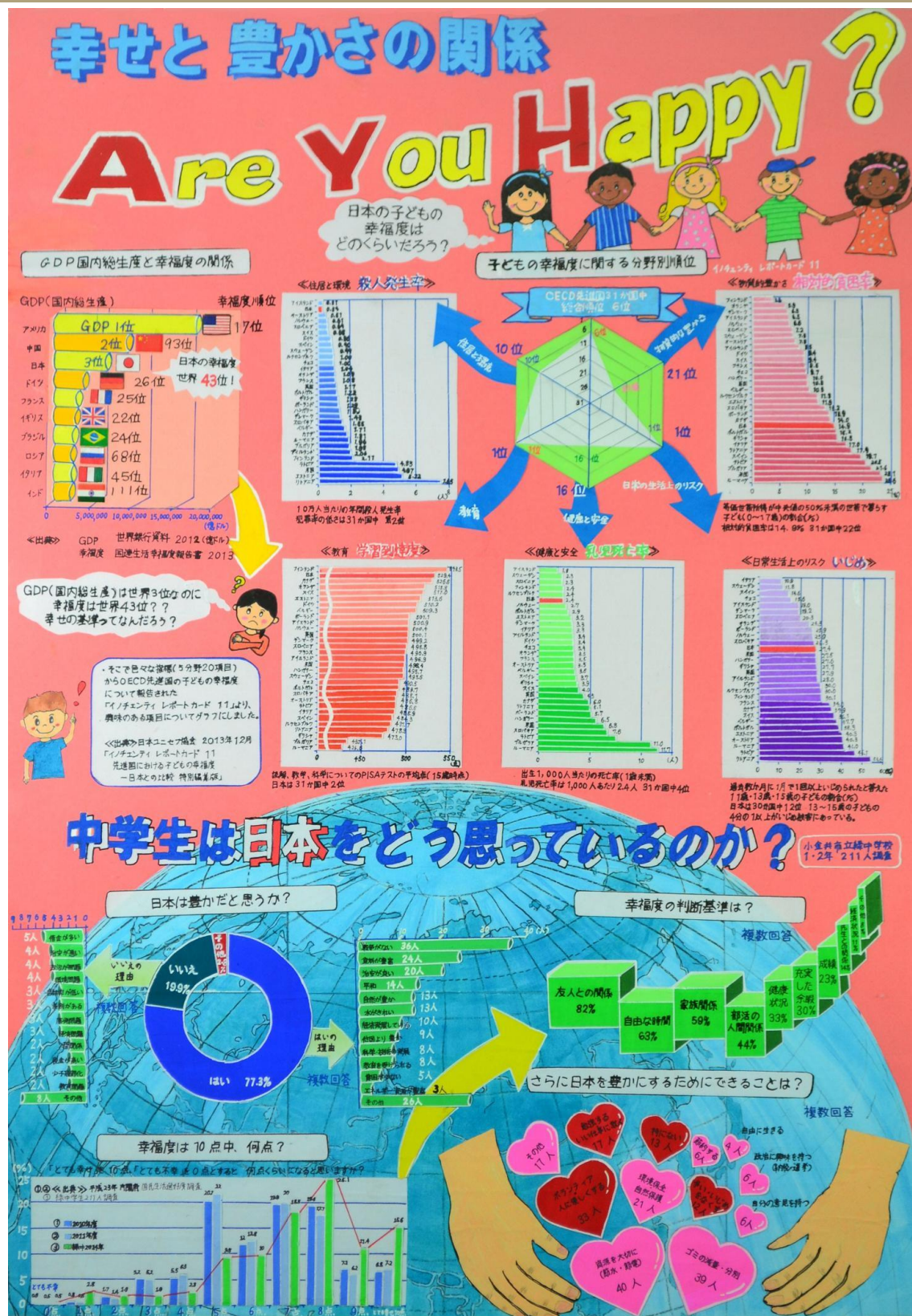
左から昨年度の東京都知事特別賞、東京都知事賞、東京都教育委員会賞の受賞作品

平成27年7月23日（木）から28日（火）の6日間、東京都庁第一本庁舎の南館45階にある展望室のイベントコーナーで、毎年11月に開催される《統計グラフ全国コンクール》への東京都の代表を決める東京都《統計グラフコンクール》の昨年度入賞作品展示会が開催されています。

昨年度（第62回）「統計データコンクール」の入賞作品15点が展示されており、連日の猛暑の中で久々の雨の23日午後、雨上がり初日に見学してきました。

毎年11月に代々木のオリンピック記念施設で開催される総務省主催「全国統計大会」で表彰が行われる《統計グラフ全国コンクール》への東京都の代表を決める作品募集は今年6月22日（月）にスタートし、9月4日（金）必着で締切られますが、毎年、前年度の受賞作品などがこの時期に展示されるものです。

昨年度の全国大会へは全国の小中高等学校から2万5千点を超える応募作があったそうですが、さて今年は…？



この作品は、小金井市立緑中学校1年の宮崎さんの作品で、細かい横棒グラフがすべて手書きで、わかりやすく描かれています。作品のテーマは「日本の子供の幸福度」で、分野別に世界の中での日本の位置を明らかにしています。

表情豊かな世界の子供が手をつないだイラストや青い地球の背景からも、グローバルな視点がうかがえます。

また暖かいピンクの地色に赤と黄色の「Are You Happy?」のタイトルが非常に効果的です。(出典:東京都HP)

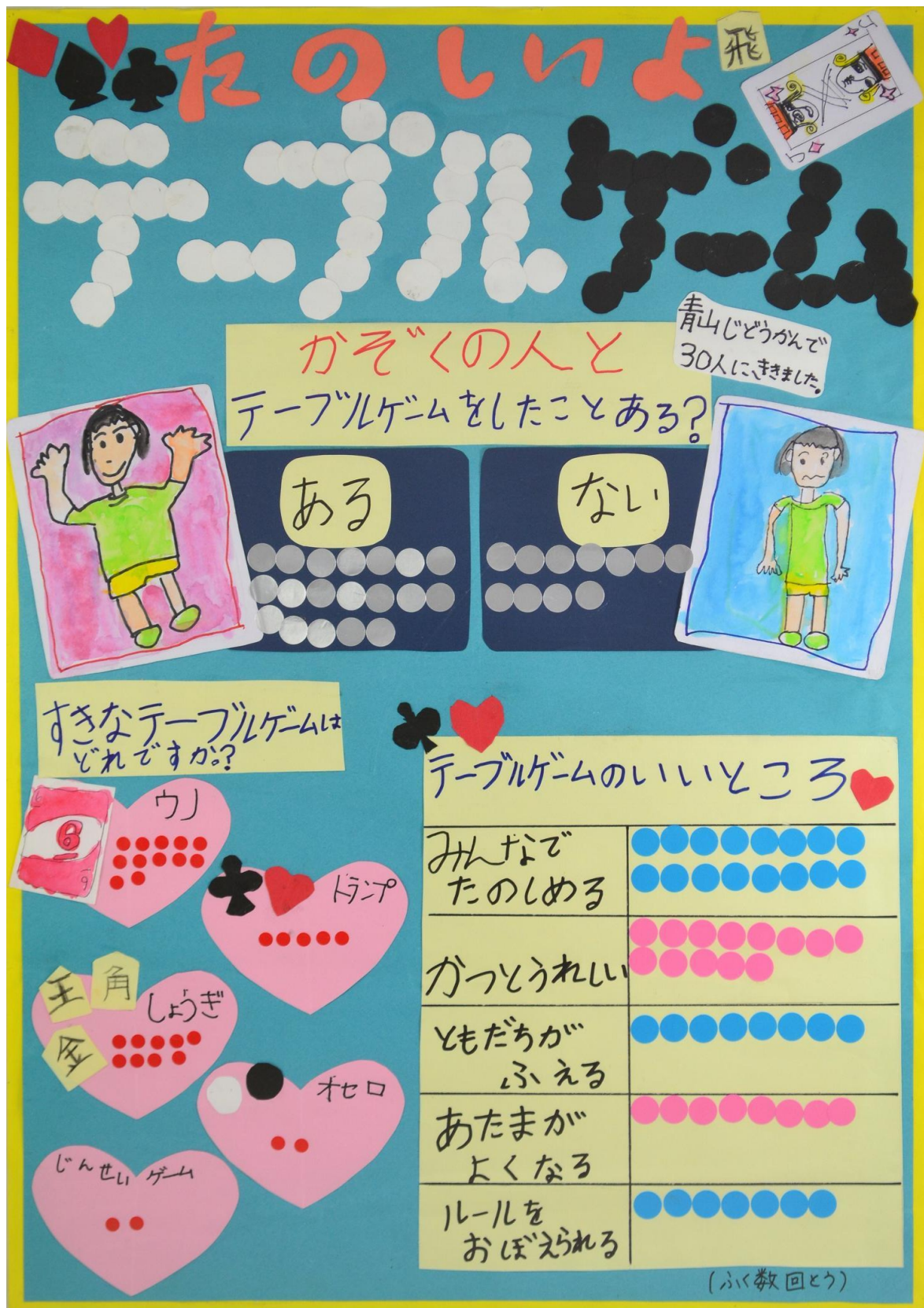
《第62回統計グラフコンクール》の東京都知事賞受賞作品



この作品のテーマは夏休みです。
行ったところ、好きなところを手描きの絵記号グラフで表しています。青色を背景とした明るい色彩と楽しそうなイラストを見ると、グラフ全体から大好きな夏休みの様子が伝わってくる小学1年生らしい作品です。

欲をいえば、お友達とそのお母さん各5人ではなく、もう少し多くの人に聞いてみると、もっともっと良い作品になります。

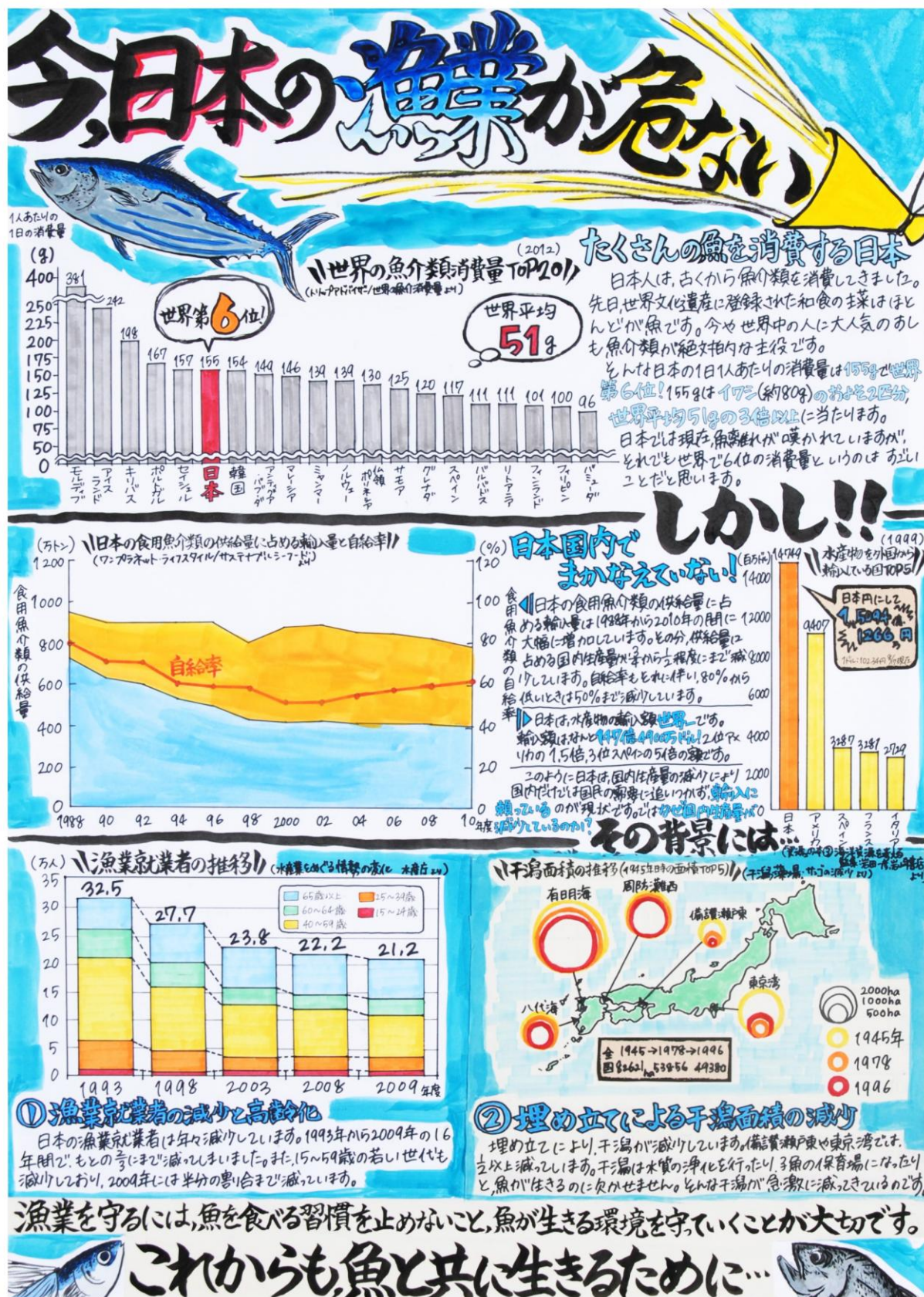
昨年度の東京都知事賞受賞作品（北区
神谷小学校 1 年の小田さん）（出典：東京都HP）



昨年度東京都教育委員会賞の受賞作品（港区立青南小学校2年の杉浦さん）

このグラフを見ると、家族と好きなテーブルゲームはウノと将棋であることが分かります。テーブルゲームをしたことのある子供の楽しそうな表情と、した

ことのない悲しそうな表情など、生き生きとしたイラストです。色彩は、薄い青や赤を基調として、明るい感じとなっています。オセロの白黒の石を利用して、タイトルの文字を描いたのも面白いアイデアです。（出典：東京都HP）



《日本品質管理学会会長賞》を授与されたのは、長崎県長与町立長与中学校3年の駒木由布子さんの『今、日本の漁業が危ない』です。

工夫された統計グラフによって、現在の漁業が抱える問題点を世界との比較や過去との比較で明らかにした、とても優れた作品です。

ブラッドオレンジの6次産業化で地域活性化

1. ブラッドオレンジについて



ブラッドオレンジの特徴

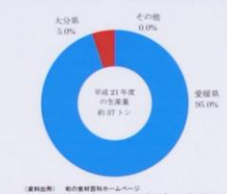
ブラッドオレンジは、インバクトのある真っ赤な果肉が特徴です。この赤い果肉はアントシアニン（ワインなどに多く含まれるポリフェノールの一種）を含んでおり、美肌や風邪の予防、ストレスへの対抗などに効果があるとされています。味はコクのある甘さ、濃厚な香り、すっきりとした酸味と豊かな風味が特徴です。ブラッドオレンジの原産地はイタリアのシチリア島で、タロッコとモロという2つの代表される品種があります。宇和島市ではこの2つの品種を栽培しています。

愛媛県宇和島市は、国内初のブラッドオレンジの産地化に取り組んでいます。地球温暖化影響で宇和島市の平均気温が上昇したことにより、栽培することが可能になりました。

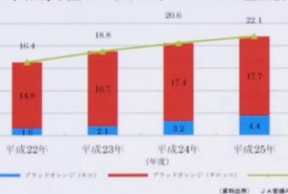


宇和島とみかん畑

ブラッドオレンジの主な生産地域



宇和島市園のブラッドオレンジの生産面積



ブラッドオレンジの収穫量（愛媛県）



宇和島市園産のブラッドオレンジの販売金額



2. 6次産業化について

6次産業化とは

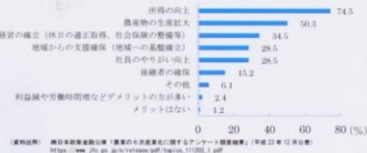
6次産業化とは、農山漁村に豊富に存在する地域資源をフル活用し、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組（1次×2次×3次＝6次産業）。

6次産業化により、我が国の農・食関連産業全体の規模を拡大し、農林漁業・農山漁村サイドに取り込むことを通じ、農林漁業者の所得の向上や農山漁村地域の活性化を実現すること。

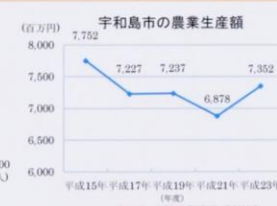
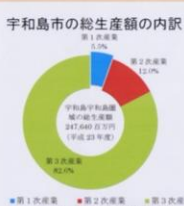
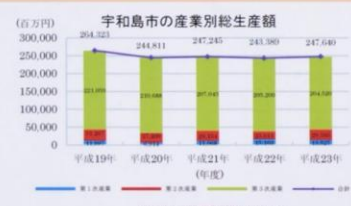
6次産業の市場規模

事業形態	市場規模
農産物の直接販売	0.6兆円
農産物の加工	0.3兆円
農産物等の輸出	0.5兆円
観光農園、農家レストラン等の事業	0.04兆円
計	1.44兆円

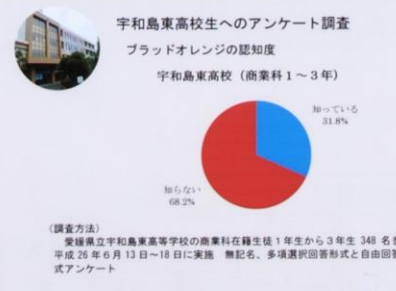
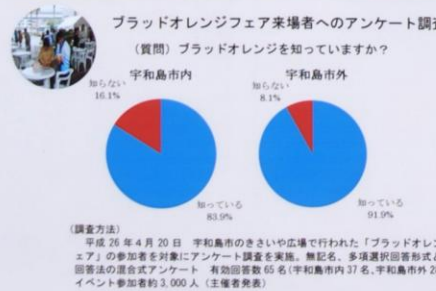
6次産業化の取組によるメリット（複数回答）



3. 宇和島市の産業経済の状況



4. ブラッドオレンジについての意識調査と宇和島東高校経済研究部の取組



こちらは昨年度の《統計グラフ全国コンクール》での「日本統計学会会長賞」の受賞作品です。

愛媛県立宇和島東高等学校の皆さんがパソコンを活用して制作したものです。

今年は「国勢調査」の年です……ご協力お願いします



ここからは余談ですが、上のマスコットの“センサスくん”をご存じですか？

総務省統計局のマスコットですが、今年10月に総務省が実施する行事をご存じでしょうか？

5年に1回実施される「国勢調査」、この国勢調査は赤ちゃんからお年寄りまで一人の漏れもなく調査しなければならないことから、日本の未来を担う赤ちゃんをイメージして平成2年の国勢調査の際に誕生しました。

名前の由来は、国勢調査を表す「人口センサス」からきているそうです。

今、日本では「少子高齢化」が叫ばれていますが、総務省が発表している人口ピラミッドには半世紀以上前にこの傾向が表れており、将来日本は少子高齢化で大変な状況になると予測した東京大学の統計学の教授が警鐘を鳴らしていたことを考えると、今の政治家が如何にデータを読むことができないかの象徴的な出来事のように思います。

巷では経営データの改ざん事件が世間を賑わしていますが、データの重要性を頭では理解していても、データが示している現象を正しく理解するためには、そこから何を学ぶかが重要です。

日本品質管理学会のTQ E特別委員会は日本統計学会などの諸学会と連携して小中高等学校や大学での統計教育の支援活動を行っています。欧米に大きく遅れをとった統計教育の挽回に皆様のご理解とご協力をお願いします。



運が良ければ、素晴らしい富士山も見えます

なお同じ東京都庁45階では総務省統計局の「国勢調査」ポスター展も開催されていますのでぜひご覧下さい。